

カップリング・インターンシップ (CIS) 2026 活動報告(ベトナム)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

9月6日(日)～9月15日(火)(移動日含む)の期間、ベトナムにてカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。今回のCISでは、ハノイ工科大学(HUST)及び現地企業のご協力のもと、企業実習を中心に、異文化環境の中で組織や人の働き方について考える実践的な研修を行いました。

9月7日(月)には、ハノイ工科大学 HUST-UOsaka にて現地事前研修を実施しました。企業実習に臨むにあたり、今回の実習テーマや活動の目的を確認するとともに、ベトナムや日本の国紹介のほか、日系製造業について、5S、QCサークルを含む取り組みや製造業の強みなど、大阪大学の学生が準備を行い発表しました。

企業実習はDaiwa Plastics Thang Long (DPTL)にて実施し、実習タイトルを「組織で成功するための3つの力」としました。学生たちは、企業という組織の中で、それぞれ異なる役割を担う人々がどのように連携し、組織として成果を生み出しているのかを学びました。

DPTLでは、まず企業紹介を通じて同社の事業や組織について学び、続いてプラスチックの射出成型について、その製造方法や工程の説明を受けました。製造現場に関する理解を深めるとともに、企業活動を技術面と組織面の双方から捉える機会となりました。

また、実習の中心的な活動として、異なるポジションや役割を担う社員の皆様一人一人にインタビューを行いました。それぞれの立場から、仕事において大切にしていること、周囲との関わり方、組織の中で役割を果たすために必要と考える力などについてお話を伺い、学生たちは得られた内容を整理しながら「組織で成功するための3つの力」について考察を深めました。

9月14日(月)にはハノイ工科大学接合科学研究所 HUST-UOsaka にて最終報告会を行い、DPTLからは濱田社長、Duc 工場長、営業部より2名の社員の皆様にご参加いただきました。また、HUSTからは Hanh 溶接学科長、Cuong 産業マネジメント専攻長にご参加いただき、学生の発表をご講評いただきました。

学生からの発表では、企業実習や社員の皆様へのインタビューを通じて考えた「組織で成功するための3つの力」が示されました。例えば、「聞く力」「共感する力」「行動を起こす力」などが挙げられ、組織の中で周囲の人々の考えや要望を把握し、適切な役割を提供することでモチベーションを高められるよう関係を築く大切さ、自ら考えて行動することの重要性等について、実習で得た具体的な気づきを交えながら発表しました。

企業実習に加え、ベトナムの文化や社会への理解を深める機会として、最終報告会の準備に目途がついた最後の日曜日に、世界遺産のハロン湾を訪問しました。現地の自然や文化に直接触れることで、企業での学びとは異なる側面からベトナムへの理解を深める貴重な文化体験となりました。

CISは短期間の活動ですが、海外の企業という普段とは異なる環境の中で、技術や製造方法について学ぶだけでなく、さまざまな立場の方々と直接対話し、組織の中で働くことについて考える機会となりました。社員の皆様へのインタビューから得た多様な考え方を自分たちなりに整理し、最終報告としてまとめる一連のチーム活動は、学生にとって、コミュニケーションや協働、主体的な行動について改めて考える実践的な学びとなりました。

本活動は、受入れ企業及び現地連携大学の皆様のご協力なくしては成り立ちません。学生を温かく受け入れ、企業実習やインタビュー、最終報告会に至るまで多大なるご協力をいただきました Daiwa Plastics Thang Long の皆様、ならびに現地事前研修や最終報告会をはじめ本活動にご連携いただきましたハノイ工科大学の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

(写真、次ページ)



社員とのインタビューセッション



工場内での学習



工場実習最終日に



Daiwa Plastics Thang Long の皆さんとの懇親会



最終報告会を終えて